

災害ボランティア活動報告 (No.18)

活動場所:宮城県亙理郡山元町作田山 (被災農家: 斎藤様の農地)

活動内容:今回は、人数が多いので2班に分け、男性陣は農地の収穫後の片づけ作業。女性、子供たちはビニールハウスやハウス周りの小石取りを行いました。

参加者:メンバー (木下史典、森本次郎、大久保隆史、広瀬義積、榎戸孝行、竹下萌)、一般参加、ネット参加の皆様。(合計80名)

活動報告:『親子で震災ボランティア体験』in MIYAGI、ボランティアバス第7弾です。

今回も、斎藤さんの農地に行きました。

総勢80名で、3月29日金曜日の夜に、千葉県四街道発で、西船橋駅、錦糸町: 錦糸公園経由で現地山元町へ向かいました。ボラバス2台で、錦糸公園では過半数の方が集まりましたので出発に多少時間がかかりました。

3月30日土曜日、朝の朝食が80名と大人数のため、地元のホテル (グリーンホテル角田) では一回で入りきらないので、朝5時から2回に分け食事をしました。かなりの強行軍で子供たちにはきつかったのではと思います。



※今回参加された80名の皆さんの集合写真です。(前列中央のご夫妻が斎藤さんです。)



※被災現場：（左写真）昨年12月の山元町立山下第二小学校前、今回、頑丈な鉄筋コンクリートの校舎が取り壊され更地になっていました。記念碑（右写真）が建っておりました。



※津波で破壊された防波堤も修復工事が進んでおり、瓦礫の団子山も少しになっておりました。昨年の12月から比べかなり整備が進んだように思えます。政権交代の影響か。

作業行程：視察の後、80人を男性陣と女性：子供たちのグループ2班に分け、男性陣はピーマン畑の撤収作業、女性と子供たちはビニールハウス内やハウス周辺の小石取り作業をして頂きました。



※男性陣の作業場所ピーマン畑の片付け。

※人数が多いので思いの外早く片付く。





※女性陣と子どもたちは小石取り。ネパールからもスジャータさんがボランティアをしてくれました。日本のために有り難う。

斎藤さんの心遣いでリンゴを休憩時間に頂きました。山元町はイチゴやリンゴが有名です。頂いたリンゴは蜜が詰まっていてとても美味しかったです。

そして、また帰り際にお土産としてリンゴや採れたての水菜を頂きました。いつも有難うございます。写真の子どもたちのように、被災地の子どもたちにも多くの笑顔が戻りますように。

今回のボランティア、過去最高の80名の参加でした。小学校2年生から65歳の方まで。遠くは鹿児島県そして愛媛、徳島県。海外からネパールの方も参加して下さいました。

多くの有り難うに感謝です。

2号車のバスに乗られているお母さんから、NPOの事について説明して下さいと言われてました。お子さんが、ボラバスのスタッフもお金を払って参加していることを聞き『お金にもならないことをしているんだ。』と驚いていたとのこと。お金だけではない大切なことが有ることを知ってもらいたい。人は支えあって生きている、生かされている事。『情けは人の為ならず。』今の子どもたちの多くは、情けをかけてはいけないと思っているとのこと。大きくなったら人の痛みや悲しみがわかる大人の方になってもらいたいと思います。私たちがなぜ親子で震災ボランティアをやっているのか。ボラバスの意義。『この光景を、この体験を、次の世代に語り継いでいくことが私たちの責務。』ボラバスに参加されたお子さん達が立派な大人になってもらえれば、私たちの活動が意義あるものになります。

1号車では、今回参加された8名の千葉大関係者の岩瀬さんが、私たちのボラバスは他のボラバスと違い顔の見えるボランティアをやっていると教えてくださいました。

他のボラバスだと、ボラセンに寄って行くので被災者の方の顔が見えない。ここは継続してやっているのだから成果が見えると言ってくださいました。畑の瓦礫や小石取り、ビニールハウス作り、収穫から、片付けまで一連の成果が感じ取れるそうです。今回も多くの有り難うに感謝します。第8回の開催も決まっています。多くの方のご参加お待ちしております。

